

5 本時の学習（11時間取り扱い 本時 10/11）

- (1) 目標 わり算の性質を活用して、どうしたら簡単な計算ができるか考え、工夫して計算をする。  
 (2) 展開

過程	学習活動	時間	○主な発問 ・指示 ◇予想される児童の反応	指導上の留意点と評価	備考
つかむ	1 前時の学習を振り返る。 【一斉】	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フラッシュカードをします。すぐに答えてください。</li> <li>◇ <math>80 \div 20</math>は簡単。</li> <li>◇ <math>1500 \div 250</math>は難しい。</li> <li>○ <math>1500 \div 250</math>や<math>6000 \div 250</math>を、簡単に計算できないか？</li> <li>◇ わり算の性質を使えばできるかもしれない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フラッシュカードの中に、本時で扱う課題を入れておく。</li> <li>・なぜ「難しい」のか問うことで、被序数も除数も大きい数であることを確認する。</li> <li>・前時の学習内容を想起させ、わり算の性質を用いれば、簡単にできるという見通しを持たせる。</li> </ul>	フラッシュカード
	2 本時の課題とめあてをつかむ。【一斉】				
もとめる	3 個人で考える。【個人】	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計算の性質を使って、<math>1500 \div 250</math>をしましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「もう少し簡単にできないか？」と問い、わり算の性質を生かして、<math>\div 10</math>だけでなくさらに性質を用いるように促していく。</li> </ul>	ホワイトボード
			<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <math>1500 \div 250</math>  <math>\downarrow \div 10</math>  <math>150 \div 25</math>  <math>\downarrow \div 5</math>  <math>30 \div 5</math> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <math>1500 \div 250</math>  <math>\downarrow \div 10</math>  <math>150 \div 25</math>  <math>\downarrow \times 4</math>  <math>600 \div 100</math> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <math>1500 \div 250</math>  <math>\downarrow \div 10</math>  <math>150 \div 25</math>  <math>\downarrow \times 2</math>  <math>300 \div 50</math> </div> </div>		
ふかめる	4 それぞれの考え方を発表する。【一斉】	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考えを発表してください。</li> <li>○ どうして、<math>\times 4</math>や<math>\div 5</math>をしようと思ったんですか？</li> <li>◇ <math>\times 4</math>にすると、わる数が100になって考えやすいから。</li> <li>◇ <math>\div 5</math>をすると、わる数が1けたになるから。</li> <li>○ 似ている考えはどれだろうか？</li> <li>◇ (わり算の性質を使っている回数は違うけど)、わる数を5にしているところが同じ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ある数でかけたり、わったりした理由を問い、次のような着想を引き出したい。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">                     わる数を                      ① 何十や何百にする                      ② 1けたの数にする                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ わる数から、わられる数をどう計算すればよいか問い、わり算の性質を確認する。</li> <li>・ わり算の性質を3回以上使う児童も取り上げ、考え方を構造化していく。</li> </ul>	ホワイトボード
まとめる	5 本時の学習をふり返り、適用題に取り組む。【班→個人】	10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     まとめ わり算の性質を使って何百や何十、1けたでわるわり算にすると、簡単な計算になる。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習したことを生かして、問題を解きましょう。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <b>適用題</b> 次のわり算を工夫して計算しましょう。                      ① <math>6000 \div 250</math> ② <math>3500 \div 250</math> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ふり返りをかきましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 板書を手がかりに、どんな方法・着想で適用題を解けばよいか、見通しを持たせる。</li> <li>・ ①は個人→班での教え合い、②は個人で取り組ませる。</li> </ul>	